

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900293
法人名	社会福祉法人 敬愛園
事業所名	ケアスタ福岡 認知症グループホーム (ユニット名 グループホーム6階)
所在地	福岡市博多区千代1丁目30番25号
自己評価作成日	令和元年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの生活を施設でも営む事のできるよう日々、入居者との関りを持ち個々の想いを引き出し実現出来るよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設1年目である。1階にデイサービス、2・3階は介護の専門学校、4階にサービス付き高齢者向け住宅、5階は小規模多機能ホーム、6・7階がグループホームが入り、建物全体が地域に根差した福祉サービス事業を展開している。環境としては高齢者の徒歩圏内にスーパー・JR駅・県庁・公園等が整っており、また博多の伝統行事になっている山笠の時期には、団結して取り組む地域である。利用者は、デイサービス利用中の友人に会いに行くなど長年の交流が途絶えることなく出来ている。更に、専門学校の教育の場としても人材育成に協力している。利用者は、リビングから見える公園の立像を拝み俳句を詠んだり、紅葉を見おろす環境に情緒豊かな生活を送っている。広いバルコニーでは家族と共にバーベキューパーティーが行われる等交流が図れている。今後ますます地域の福祉サービスの拠点となっていくことが期待される事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を壁に貼りだし、心掛けて業務に当たれるよう出勤の際に各個人で確認している。	法人理念を職員更衣室、休憩室にそれぞれ掲げており、職員は勤務に入る前に必ず目にし、ケアに対する意識付けを行っている。忙しくとも、日々利用者本位のケアを行うため寄り添うケアを心がけている。グループホーム独自の理念作成には至っていない。	法人全体の理念は実践しているところなので、グループホームの特性を活かしてすべての職員のケアのよりどころとなる事業所理念の作成について検討する機会を持つことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体としては、地域の祭りに参加したり、地区の会議に参加する等行っているが、グループホーム単体としては行えていない為、今後はグループホームとしても施設の取り組みに協力し参加していく。	徒歩5分余りの同法人と共に、小学校のイベントの手伝いをしたり、山笠へ参加したり地域との関りを持っている。開所前の地域住民説明会では、好意的に受け入れられ自治会加入もあるが、開設1年で利用者を含めた参加までは至っていない。	この1年、職員は、地域とのかかわりを持ち事業所の役割を地域に示すことが出来ている為、今後は、利用者も含めた交流の場への参加が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に入居者と共に参加し認知症理解や支援について深められる交流の場に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内でグループホームの入居者について報告や取り組みについて報告し意見やアドバイスをいただいているが実践に繋がっていない。	2ヶ月に1回、5階の小規模多機能ホームと合同で運営推進会議を開催している。民生委員や包括支援センター等4～6名程度の参加があり、現状報告を行っている。参加者の意見やアドバイス等は、部分的に実践に活かすことができています。	運営推進会議で出された意見やアドバイス等については、利用者へのサービスの質の向上に活かせるように職員間で検討する機会を持つことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や福岡市開催の研修や催し事に積極的に参加し意見交換など行っている。	開設にあたって、市の担当部署との連絡は取っており指示を仰ぐこともある。また、本年10月に市役所本庁広場で開催された「介護つながるプロジェクト」へ参加する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束はおこなわないという考えと事業所内でも身体拘束委員会で日々のケアの中の振り返りを行っている。今後は研修などにも積極的に参加していきたい。	3ヶ月に1回委員会主導のもと勉強会を行っている。法人全体でも職員研修をも開催しており、周知徹底している。やむなくセンサーマットを使用する際はベット臥床時のみとしたり、言葉がけにより行動等の制止につながらないようにも心掛けたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や事故発生時に他職員も交え直接的原因を探り対策を立てている事とフロア会議でも振り返りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強会開催や研修参加するなどの機会を設けられていない為、学ぶ機会を設ける。	権利擁護等制度を利用している利用者が数名おり、職員は制度の理解や会議で制度利用者の情報共有はしており、主に管理者が対応にあたっている。家族への制度の情報提供や提案には至っていない。	管理者のみならず職員も適宜必要な対応を求められることを鑑み、学ぶ機会を設け家族への情報提供についても今一度検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人とご家族と面談し不安などについてお聞きしている。また契約時には重要事項説明書について一つ一つ説明をおこなっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に面会時やカンファレンス開催時に入居者やご家族から直接お聞きしているが外部者へ表せる機会が設けられていない。	意見箱等の設置が無くとも、直接家族との意見交換ができており、個別対応をしている。ホームページからブログの発信はしているものの、定期のお便り等は全く全体周知に至っていない。	お便り発信する用意があるとのことなので双方向に意見や情報交換がしやすい工夫などについて検討する機会を持つことを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々が意見を言える関係性を構築している事と月1回フロア会議を開催し各職員に意見や提案について求めている。	管理者とはいっても話しやすい状況にある。広報委員会を立ち上げたいとの希望を伝え、近く家族へ事業所の状況を定期発信する準備を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、考課制度と個人面談を実施し個々の現状把握やアドバイスをを行うと共に施設や業務内容などに対して個々の意見を伝えられる場を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用する際は性別や年齢等に捉われず応募者の介護に対する考え方や経験者であればこれまでの取り組みなど尋ね一つの採用判断としている。	オープニングスタッフと法人内異動の永年勤続職員となっている。希望休暇や有給休暇もあり、職員の家庭環境を考慮した勤務ができています。産休、育休取得も協力的であり復帰しやすい。資格取得について、管理者からの提案もあり意欲が湧きスキルアップでき、各年代の職員構成で補い合っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修や一部職員に向けた研修を開催している。	月1回法人全体で人権学習を行っている。参加できない職員への資料の回覧も徹底周知している。ブログ等写真掲載の際は、利用者、家族から了承をもらい、配慮に欠くことの無いようにしている。地域住民へも開所の際、見学会説明会にて理解を求め協力を得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に必要な知識や技術習得に向けて外部研修や施設内研修に参加し育成に繋げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市主催の催し事に参加し同業者と意見交換や交流を深める機会を設けている。今後はより参加する機会を増やしていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談において、本人の困りごとや不安等をできる限り聞き取りしプランに反映している。また必要に応じて施設見学に来ていただき実際の生活環境について直接説明を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日当日にご家族にどのような生活を送ってもらいたいのか、要望や不安についてお聞きしニーズや現状の課題の把握に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の不安や要望を十分に聞き取り、必要な支援に対し法人内にある多機能のサービスや外部サービスを含めた説明を行い、選択して頂ける機会を設けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で手伝っていただける環境を作りお互いが助け合う関係性を築くよう心掛けているが十分な機会を設けられていない。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取り合い面会時にも日常生活の状況をお伝えしたり行事に参加していただくなど共に過ごす時間を作り入居者が安心できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的にこれまで関係性を持たれていた方の面会も多く自宅や大切にされている場所に外出・外泊できるよう日々体調面も配慮した支援を行っている。	理美容院等、家族の協力により慣れたところへ行き継続した付き合いが出来ている。また、デイサービスに来た友人に会いに自ら1階へ降りるなど親交を深めている。利用者が常に集まるリビングとは別に、こじんまりとしたリビングがあり、来客者が気兼ねなくくつろいで行ける空間がある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立にてコミュニケーションが取りづらい入居者に関しては職員が介入し、円滑におこなえるよう努めている。また入居者同士の関係性を把握しトラブルに繋がりそうな場面では即事に対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ本事例はないが、長期入院や施設の転移等での退居時等、お困り事があった場合はいつでも相談頂けるよう関わっていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で入居者の要望や悩みといった情報を全職員で共有し日々の関りや支援に繋げている。	意思疎通が難しい場合は、日頃の関わりの中で、利用者の表情や行動を見て気持ちをくみ取り、本人の視点にたって思いや意向を把握している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族から聞き取りを行い今までの生活歴など詳細を介護計画に盛りこんでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を前提として入居者一人一人の現状把握に努めケアにあたっているが職員によって個人差がある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間を短期間に設定し課題や変更が必要な状況に素早く対応できるよう実践している。	利用者の心身の状態の変化を職員間で共有し、家族や医療関係者と連携をとり、現状に即した介護計画を作成している。利用者自身で洋服を選び購入したいと希望されたケースでは、デパートへ出向き買い物支援に反映した例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の個人差があり各入居者に応じた記録が抜けていたり、把握できていない事もある為、記録方法やポイントを押さえた記録について個別に学んでいく必要がある。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の各施設と連携を取り入居者やご家族の希望など考慮し様々なサービスについて説明と案内をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や近隣の公演など利用できているが今後は各入居者に応じた支援を実践していく必要がある。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療の際には、日々の状態を伝え、適切な医療を受けられるよう随時提案を行っている。	本人や家族等の希望する医師による医療が受けられる。受診は家族が連れて行くが、職員より日々の情報提供、家族からの受診後報告等連携は取れている。協力医は24時間対応で急な変化にも適切に対処できる。歯科の訪問診療は定期的に行ない、希望すれば随時受診することができる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の際には、日々の状態を説明、相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。かかりつけ医に関しては24時間での対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を持ち、病院関係者との情報交換等に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス等の時間を利用し、延命措置に関する対応についてご家族と話す機会を設けている。その際、事業所でできることについて説明を行っている。地域のクリニックとの連携を日頃から行っている。	医師との連携のもとに早い段階で、家族等と話し合いを行ない、チームで方針を共有しながら重度化や看取りに向けた支援に取り組んでいる。希望があれば、家族の宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人における年1回の研修はあるものの、本事業所では行っていない為、今後、勉強会等を行っていく。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルは作成されているものの訓練自体が出来ていない為、早急に訓練の実施と地域の方との連携体制を整えていく。	消防の協力のもとに避難訓練は実施している。全職員が災害時対応マニュアルの理解ができていないと言えない。また、夜間想定はまだ行っていない。現在、地域との協力体制や備蓄を整えている。	有事に備え、昼夜を問わず、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけると共に、備蓄の準備や地域との協力体制を築くことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員によっては、また状況によっては配慮が欠けている場面も見受けられる為、随時見直しが必要。	事業所のブログに掲載する写真は、希望者のみ載せている。利用者は、一人になりたい時には自室の鍵をかける事が出来る。記録は、利用者の視野に入らないところでパソコン入力し、紙ベースの記録等は、鍵の掛けられる書庫に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような声掛けや対応を心掛けているが、より自己決定できるよう職員側の工夫も必要である。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状、1日のスケジュールが職員都合で動いている場面が多い為、入居者のペースに合わせた支援ができるよう取り組んでいく。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況によって身嗜みが整っていない時がある。起床時の声掛けや介助・衣類などその方らしい支援ができるよう取り組んでいく。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や外食で入居者の希望された食事を提供し楽しく・美味しく提供できている。日々の調理については職員のみでおこなう事が多いので、入居者が負担なくできる事を一緒にやっていく。	湯飲みや茶碗、箸は利用者の好みの物を使っている。プランターで作った野菜を、調理に利用する事もある。おやつ作りを利用者と一緒に行なっている。ホームのベランダでバーベキューを行なったり、外食を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の記録やチェック表を活用し摂取量や摂取状況把握に努めている。また必要に応じて個人購入し食事や水分が好んで摂れるよう支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常の口腔ケアに関しては声掛けや介助し清潔保持に努めている。また訪問歯科も利用し専門職から口腔内の情報やケアについてアドバイスをもらい口腔ケアに繋げている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	取り組みとしてオムツ使用の入居者の排泄状況やADLも考慮した上でトイレ誘導実施しオムツ外しに組み込んでおり、場所やティッシュ等が分からない入居者に対しても目印をつけるなどして自立支援に取り組んでいる。	排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせてトイレ誘導を行なっている。夜間帯オムツ使用の利用者も、日中はリハビリパンツを使用して排泄の自立にむけた支援をしている。各居室に、トイレと洗面台が設置しており、安心してトイレ利用ができる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便状況は把握しているがアプローチとして水分提供や運動など個別に合った取り組みが出来ていない。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日固定してしまっているのを、まずは1日を通して入浴できるよう改善する。	週2回の入浴を午前中に実施しており、時間や曜日は固定している。脱衣室は、ヒートショックの防止で暖かく保たれており、畳を思わせるような床材を使いゆったりとした雰囲気である。シャンプーや石鹸などは本人の好みのものが利用できる。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴のありかたについて、今一度検討する機会を持つことを期待したい。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息をとっていただいている。また夜間、眠れない方に関しては食べ物や飲み物を提供している。また巡視時は室温にも気を付け温度調整をおこなっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用について把握できていない職員もいる。薬情報や記録で把握できる事ができる為、薬の重要性について学ぶ必要性がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや嗜好品については行事企画を立て支援しているが入居者の生活歴や力を活かした役割が持てていない為、アセスメントを活用した支援を行う必要がある。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数などの外出はできているが個別に沿った外出支援はほとんどできていない為、入居者の希望に沿えるよう職員だけではなく家族やボランティア・学生に協力依頼していく。	少人数で、近くの公園や神社に車椅子利用の方も一緒に出かける時もある。外食や花見にも出かけている。今後は、家族、ボランティア、専門学校生の協力を得て、個別対応での外出支援を実施できるようにしていく予定である。	利用者一人ひとりの希望に添った外出の効果を鑑み、人的支援が期待できる環境にあることから、今後の取り組みを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心されるという理由で所持されている方は居られるが基本的には入居者は持たれていない為、買い物に行きご自分でお金を使えるよう取り組んでいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方も居られ他の入居者も電話や手紙等の希望があればご家族に相談し可能な限り対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部共有空間は安心してゆっくりできる工夫を行っている。また音や光・色など不安に繋がらないようその都度、配慮している。	ビルの5・6階であるが、居間兼台所は見晴らしもよく、明るい、静かな空間となっている。季節の飾りを取り入れて、ゆっくりと過ごせる様にソファや椅子を設置しており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるよう、その時に応じてテーブルや椅子の移動を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と話しながら、家具や本人の馴染みの物を持ち込んで頂き、安心した環境で生活して頂けるよう工夫している。	居室は、ベランダもあり見晴らしも日当たりも良い。トイレ、洗面台が各部屋に設置しており、収納スペースも十分にある。本人の好みの飾りや写真を掲示しており、居心地よく過ごせる空間になっている。自宅の使い慣れた家具や仏壇などを持ち込める。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることに合わせ、トイレのドアや居室内の家具の配置を変えたり目印をする事で安全に自立した生活が継続できるよう支援している。		